



らいぶらりい

2022.2.17

倉吉北高図書館



《2月生まれの科学者》

ガリレオ・ガリレイ



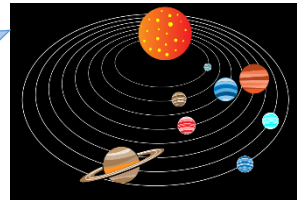
1564年2月15日生まれ イタリアの物理学者、天文学者。自作の望遠鏡で土星や月などを天体観測し、地動説を唱えました。また「ふりこの等時性」「相対性原理」「落下の法則」などを発見しました。

ガリレオは小さいときから、何事も実験や観測をして事実を確かめないと気が済まない性格であり、科学はそうであるべきと考えていました。そのため意見の合わない人とケンカが絶えず、「ケンカ屋」というあだ名がつくくらいでした。地動説も当時の人達には受け入れられず、宗教裁判にかけられ、晩年は牢屋に閉じ込められてしまいました。

ガリレオが亡くなって350年後、1992年にローマ法王がようやく地動説を認め、亡きガリレオに謝罪をしました。

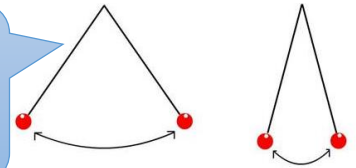
地動説

土星や月の観測から、地球も球体で太陽を中心に回っているという説⇔天動説



振り子の等時性

振り子が往復する時間はひもの長さで変わる。



トーマス・エジソン



1847年2月11日生まれ アメリカの発明家。電話機や蓄音機、電球の実用化、映画を上映する機械などを発明しました。エジソンは84歳で亡くなるまでに1200以上の発明をして、この世に送り出しています。そんなエジソンですが、小学生の時、先生に当たり前のことや関係ないことまで質問攻めにするので、3か月で辞めさせられてしまいました。でもその後も勉強は続け、実験をしては確かめていました。どんなに失敗しても諦めず、考えることをやめませんでした。そして数々の失敗を繰り返しながら、蓄音機や電話機を発明しました。実験がうまくいかないときは「失敗ではなく、うまく行かない方法を発見したのだ」と、とても前向きな姿勢でした。だからこそ「不屈の人」であり「発明王」になれたのですね。

【参考図書】「なぜ?に答える科学のお話 366」長沼毅監修/PHP 研究所 「すごい科学者のアカン話」藤嶋昭監修/ナツメ社
「太陽のきほん」上出洋介著/誠文堂新光社 「星界の報告」ガリレオ・ガリレイ/講談社





2022 年本屋大賞ノミネート作品

『赤と青のエスキース』 青山美智子/PHP 研究所

『硝子の塔の殺人』 知念実希人/実業之日本社

『黒牢城』 米澤穂信/KADOKAWA

『残月記』 小田雅久仁/双葉社

『スモールワールズ』 一穂ミホ/講談社

『正欲』 朝井リョウ/新潮社

『同志少女よ、敵を撃て』 逢坂冬馬/早川書房

『星を掬う』 町田そのこ/中央公論新社

『夜が明ける』 西加奈子/新潮社

『六人の嘘つきな大学生』 浅倉秋成/KADOKAWA

4月に大賞が発表されます。今年の本屋大賞はどの本が受賞するのでしょうか。ノミネート作品は図書館で借りることができます。借りて読んで、大賞を予想してみよう!!!そしてあなたの大賞はどの本ですか???

第166回 直木賞

米澤穂信「黒牢城」
今村翔吾「塞王の楯」

直木賞とは……

正式名称は「直木三十五賞」。作家の直木三十五を記念し、友人の菊池寛が1935年に創設。新進・中堅作家によるエンターテインメント作品(長編または短編集)が対象で、年に2回発表される。

第166回 芥川賞

砂川文次
「ブラックボックス」

芥川賞とは……

正式名称は「芥川龍之介賞」。作家の芥川龍之介を記念し、友人の菊池寛が直木賞とともに創設。新進作家の純文学作品(中・短編)が対象で、年に2回発表される。

新着図書(一部紹介)

「わたしはオオカミ」 アビー・ワンバック

「歴史をなぜ学ぶのか」 本郷和人

「島根のトリセツ」

「カミングアウト・レターズ」 Ryoji + 砂川秀樹編

「単位と法則大図鑑」 Newton

「学校に行けなかった中学生が漫画家になるまで」 月本千景

「パンデミックプラネット 感染症が地球にあたえる影響」

アンナ・クレインボーン

「ILLUSTRATION (イラストレーション) 2022」

「マークの図鑑」 児山啓一監修